

COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行/副理事長 大石
tel:050-5511-3926

2011年度活動テーマ
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協同で被災地復興と大地再生。
発酵と復興

【6】現実を直視する・・・青森の「六趣」

原発に頼らないまちづくり

日本の原発は住民の過半数が「賛成」したからそこにある。現地の選挙のドロドロの裏舞台があるのは私も知っている。しかしそれでも住民が選択した結果が現在の原発立地。

電力会社は国の補助金を使って、住民の要求を上手に、マーケティング・ブランディングで実現している。

青森六ヶ所村における、芋焼酎「六趣」の開発。地元で捨てていた規格外の芋を使って電力会社が企画支援して、高級ブランド焼酎に育てていった。こうなるともう住民は日本原燃から離れられない。どうして私たち市民がそれをできなかったのかと悔やまれた。

放射能廃棄物処分場は、「調査」を受け入れただけで、10億円が出る。これはもう「まちづくり詐欺」です。

1988年4月、茨城県真壁町は、高レベル放射性廃棄物の地下処分の調査地にされて町が揺れた。しかし自らの力でまちづくりをすすめ、今や「ひな人形」で観光客を呼び自立できる町に。

再び処分場の話しが来ても、「今さらそんなものに頼らなくとも、この町はやっていける」と。

【7】どうするか

雇用の実際と格差

福島事故後、福井では「原発しか仕事がない」クビは地震より怖い」と。

東海村で東海原発廃炉を求める署名をやっていると、「原発が止まると下請けの私は失職してしまう」「お父さんが原発関連で働いている」「原発がなくなると東海はダメになっちゃうんです」と。

6月末に帝国データバンクが、国内原発関連企業の数と従業員数の都道府県別データを発表しました。それによれば、

東京都	574社	50万人(東電・東芝・日立本社)
大阪府	184社	10万5千人
茨城県	201社	2万2千人(東海村に集中)
神奈川県	169社	1万9千人
福井県	144社	4,100人
福島県	120社	2,995人

原発の立地県の企業は都市に比して雇用も少なく、結局本社のある東京・大阪の企業と雇用が圧倒的という格差構造が現実なのです。

東海村・村上村長の視点

東海村の財政は「約3割」が3つの原子力施設からの固定資産金と国からの交付金。他方「過疎」ではなく、守谷市・つくばみらい市・つくば市・牛久市に次いで県内5番目の人口増加率。高齢化率は20%と県内平均より低く、若い人が多い。

村上村長は、

- ①東海第2を廃炉としても村にはまだ可能性がある。
- ②JPARK(研究所)を村の経済活性に生かせる
- ③海外からの研究者が多く来るが、東海村には宿泊施設も文化施設もない。
- ④この不便・不満を解消することに、村の活性化のヒントがあるはず。

と言う。

まちづくりの施策は、民力を生かした工夫とその有機的な絡み合いではないでしょうか。

地域の魅力を引き出す産業の視点からも私たち市民の連携の可能性もある。

原発しかないと思いつけてはいけません。

皆様に協力して頂いている東海第2原発の廃炉を求める署名、どうかよろしくお願いいたします。

○講演会第二部では活発な質疑応答、意見交換が行われました。



○講演会に先だって、「第3回脱原発・くらし見直し委員会」が開催され、地域向けパンフ作成や、各地区での活動の交換をしました。



【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故から半年

10/30 小川仙月さん講演会

チェルノブイリ事故では、3年後から子どもの異変がおき始めた。



「みなさん、”3年後”という数字をよく覚えておいて下さい」



1986年6月、チェルノブイリ事故直後のソ連で甲状腺の放射能汚染の測定を受ける子どもと母親。(米TIME誌 1986年9月号 No.36、小川)



2011年3月、福島第一原発1号機に続き14日、3号機も爆発。除染後、裸のまま再度放射線のチェックを受ける赤ちゃん。母親も除染で濡れた状態。14日午後3時半。福島県二本松市。(朝日新聞 2011年3月15日付)

「事故から4年後の1990年にチェルノブイリに入り、母親たちから日本での治療をと、子どもの名前と住所を預かった。しかし数年後母親から伝えられた伝言は・・・」「僕の身体の中には、この子たち、母親たちの無念が残っていて、福島を黙っては見えないのです」(小川)

私は、全ての原発を即刻止めるべきだと考えます。

今週は、2回分の商品カタログをお届けしています。この商品案内は12月3回分です。大変ですが、**2回分同時に提出**をお願いいたします。お届けは、12/19(月)～23(金)です。

○今週、中刷りで震災を受けた「まるたか水産」さんから宮城県石巻・万石浦の「生かき」出荷です！

【10/30 小川仙月さん原発講演会】 「チェルノブイリからフクシマへ～放射能被害」 東海第二原発を廃炉にする

10/30、脱原発くらし見直し委員会主催で、小川仙月さんの講演会を開催しました。大変貴重でかつ重要な内容ですので、ほぼ網羅的にその要旨を報告いたします。



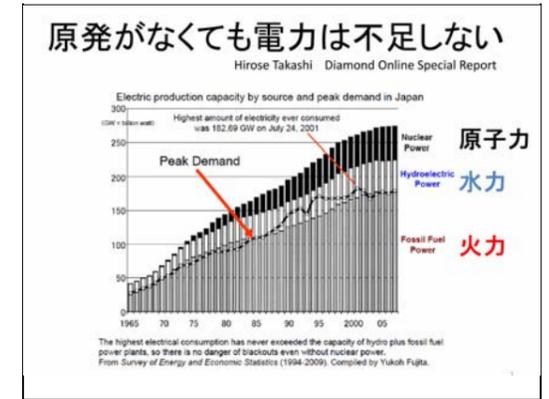
【講演要旨】

○私は、**全ての原発は即刻止めるべきだと思っています。段階的など考えられない。その理由は二つです。**

- ①事故はいつおこるかわからず深刻な被害
- ②使用済み核燃料・廃棄物の行き場がない

○**エネルギーや電気は原発がなくても足りる。**

それは一目瞭然です。電力会社や国は「原発が止まると停電」などと言っているが、もともと原発を動かすために、わざわざ火力発電の設備稼働率を落として運用している。



では一体何が目的なのか？ビジネスです。原発というシステムは1基でこれにかかわった企業は100年儲かると言われている。つまり原発を動かす動機は、国民生活や産業の電気とはまったく関係ないことなのです。



小川仙月さん
筑波大卒業後、1986年チェルノブイリ事故に直面し、1990年日本人ではいちばん早く単身現地へ。帰国後、各地で講演し、現地の被害者の様子を伝え、原子力発電の危険性を訴え続けてきた。
現在、建築士としてつくば市桜庁舎前の「小川バリアフリープラン」でバリアフリーの設計・施工。
東海村村議相沢さんと共に、東海第2原発再稼働中止・廃炉を求める署名呼びかけ人。

【1】チェルノブイリの被害者が教えてくれること

原子力を語る時、単位や数字の話しから入るのではなく、**まず被害者の話を聞いて下さい。被害者の方に向き合うことからはじめて下さい。**

1986年チェルノブイリ事故。当時はソ連邦で秘密主義。西側ジャーナリストもなかなか入れなかった。ところが**3年後から子どもたちの身体から異常が起き始めた。** みなさん、3年後ということをよく覚えておいて下さい。もう政府も隠しきれなくなっていた。

1990年、私は単身チェルノブイリから北に300kmのベラルーシへ。ミンクスの小児白血病棟では「日本人が来た」と。母親たちは「日本での治療を」と、住所と子どもの名前を書いたメモをいっぱい渡された。



1990年10月、白ロシア（ベラルーシ）ミンクスの小児白血病センターにて（小川）

数年後、現地に入っていた広河隆一さんを通じて、母親から「あの子は死んだと伝えて欲しい」との伝言。僕の身体の中には、この子たち、母親たちの無念が残っていて、今福島の子供たち、母親たちのことを思うと、黙っては見ていられないのです。

【4】日本人には引き返すチャンスがあった

僕らが何で今こんな目に逢っているか・・・40年の道筋がまちがっていたからです。

過去の事故を今さら言っても遅いという人がいますが、そうは思わない。どこでまちがえたのかをしっかりと見ておかなければ、またまちがってしまう。

いくつか引き返すことができた地点があります。

- ①1989年、福島第2原発再循環ポンプ破損事故
「世界に例のない事故」(福島民報)
再循環ポンプ事故と聞いたらたいへん怖い事故だと思って下さい。このポンプの構造は原子炉の大きな泣きどころです。しかし、福島でしか報道されなかった。もう少しマスコミが騒いでいたら目が覚めていたかもしれません。
- ②1991年、美浜原発2号機 日本で初めて緊急冷却装置が動き、緊急停止
- ③2007年、中越沖地震で柏崎原発火災
このとき福島双葉町の市民が「停止命令は当たり前で、宮城沖地震が心配されるだけに福島県の原発も対応を強化してもらいたい」と(福島民報)。

福島は次は？ What's Next ?

福島は次に起こることは何か？
東海村にはいろいろな原子力施設があります。そのうち、特に危ない施設は

- ①日本原電 東海第2原子力発電所
- ②旧動燃 東海再処理工場

	核燃料	原子炉	核燃料サイクル
茨城	● (99年JCO臨界事故)	○	● (97年動燃臨界事故)
福島	○	● (11年F1炉停止事故, 89年F2炉再稼働ポンプ破損事故)	○
福井	○	● (91年美浜原発発生臨界事故)	○
青森	○	○	○

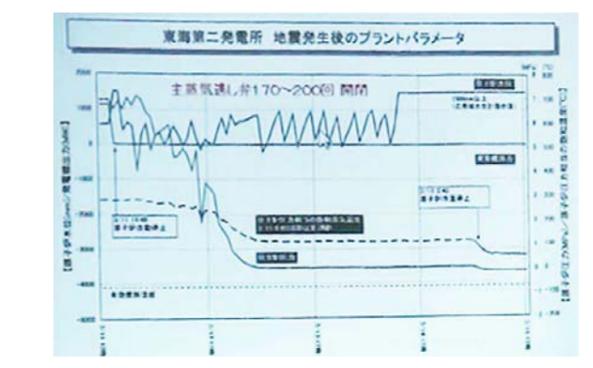
核燃料・原子炉・核燃料サイクル、全部あるのは茨城県と青森県だけ。

【5】再び、茨城県民の危機

3.11、東海原発で何が起きていたか

- 3月11日、定格運転中に地震発生
- 2:46 タービン停止
- 外部電源喪失
- 非常用発電機3基が運転開始
- 3:22 津波発生 何度も何度も津波押し寄せ
- 非常用海水ポンプに海水侵入

- 4:50 最大津波
- 7:22 非常用発電機1台が動かなくなる
- 3月13日 PM7:30 外部予備電源復旧
- 3月15日 PM0:40 原子炉水温度100℃以下に



この間、原子炉の燃料棒の水位は上下に激しく変動し、主蒸気逃し弁を手動で170～200回開閉している。凄まじい。一步間違えれば第2の福島になったことは間違いない。ようやく15日に冷温停止まで持って行った。丸4日。

女川原発は翌12日零時には冷温停止していた。

7月8日、日本原電は次のような報告書を提出した。**敷地全体が1.2m移動。0.2m沈降。**

地盤がそのまま動いているのに大丈夫ということはないだろう。基盤の変動も、建物によっても耐震性が違う、配管のズレはないのか？等の説明なし。もうこんなものは絶対に動かしてはならない。

※6月、常陽新聞では東海原発南方の活断層について再度警告された

旧動燃「東海再処理工場」では

核燃料サイクルとしての「再処理工場」—高速増殖炉「もんじゅ」は事実上破綻している。誰も動くとは思っていないから、「エイツ！、軽水炉に回してしまえ！」というのが「プルサーマル計画」。

そして高レベル放射性廃棄物をすべて六ヶ所に集めて「大型再処理工場」を計画したが、ガラス固化がうまくゆかずこれもストップして、使用済み核燃料が各原子炉に溜まったまま。

六ヶ所の1/4くらいの再処理工場が茨城県にある東海再処理工場。ここもたびたび事故を起こしており、周囲は半減期1600万年の放射性ヨウ素129で汚染されてしまっている。